

# おいしい O E C ニュースレター

Vol.23  
2014年12月発行

## 【コラム】マングローブのつぶやき ～その6～

### 水辺の植物と除草剤

『ヤマヌハギネー、ウミンハギン』の言伝えが、沖縄にあります。これは、陸域の森林から海草や海藻など、海の植物に養分がもたらされることの例えだと思えますが、今はそれらを枯らす薬剤が流れ込むことがあります。

約25年前、久米島の海岸は赤土汚濁・堆積がひどい状態で、海草帯と思われる干潟が緑の無い丸ハゲ状態だったことを思い出します。多分、干潮時に降雨で陸域から赤土の濁りとともに、まだ効き目の残る除草剤が干潟に流れ込み、海草が枯死したためと推測しました。同じことが、宮古島川満マングローブのヒルギダマシでも見られました。雑草を抑えるため、畑の畔や農道沿いに除草剤が撒かれます(写真1)。



写真 1. 畑の畔に撒かれた除草剤

雑草に撒かれた除草剤は、効き目の残ったまま、葉の表面から雨で洗い流され、畑からの濁水とともに道路とその側溝、水路へと流れ出ます(写真2)。濁水は河口からマングローブ域を経て海草帯へ達し、沖に広がって行きます。陸(流)域から流れ出る汚濁・汚染は、海へ出る間に淡水池でタイワンアシカキ(写真3)を、そして汽水域でヒルギダマシの葉を枯らし(写真4)、さらに干潟の海草をもハガしてしまうのです。

(会長 下地邦輝)



写真 2. 降雨時に畑から流れ出た濁水



写真 3. 水中に茎や葉のあるタイワンアシカキが特に枯死



写真 4. 上部の葉だけが枯れたヒルギダマシ

## 「なはエコガイド養成講座」実施中！

去る11月18日、「なはエコガイド養成講座」(公益財団法人河川財団の河川整備基金助成事業)がスタートしました。受講生は、地域限定通訳案内士、特例通訳案内士、街角ガイド、まちま〜いガイドなど、すでにガイドとしての資格や経験をお持ちの方を中心とした19名です。11月18日～12月25日まで週3日の講義と実習で、OECが実施する水辺の環境学習プログラムのガイドとして活躍するための知識とスキルを習得します。コースリーダーは、理事の屋宜マサ子さんです。

受講生は、沖縄に来て間もない方、沖縄が好きで移り住んでこられて長い方、生粋のうちなんちゅ、そして海外から沖縄

に来られた方と様々で、年齢も40歳代を中心に20歳代から60歳代のベテランの方まで幅広い層となっています。

養成講座では、①ラムサール条約登録湿地「漫湖」を解説できること、②沖縄のマングローブ湿地を解説できること、③沖縄のサンゴ礁を解説できること、④国場川の水環境の変化について解説できること、そして⑤沖縄の危険生物を解説できることを目標としています。受講生の皆さんと楽しく充実した講座を実施して、閉講式の日には全員に修了証とガイド証をお渡しできることを期待しています。

(事務局長 立田亜由美)



11月18日、開講式で始まりました。



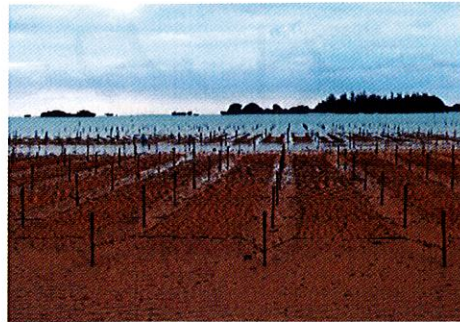
オリエンテーションの後に OEC プログラムの説明をしました

## 沖縄資源調査放浪記「アーサ養殖の金城さんを訪ねて」

「この放浪記、最初の題材は何にしよう」から考えはじめ、おきなわ環境クラブの会員さんでもある、「アーサ養殖をしている金城さんのお仕事が見てみたい」という思いから、恩納村までアーサ養殖場・加工所へ取材に行きました。

金城さんは沖縄の方言でアーサと呼ばれる海藻(ヒトエグサ)の養殖を恩納村で始めて約15年になり、採れたアーサは佃煮や生アーサなどに加工して、学校やその他へ販売しています。アーサ養殖の年間スケジュールは7月に網の洗浄、8月網の補修、9月種付け、10月～12月までの3ヶ月で成長したアーサを、1月中旬頃から収穫するという流れです。私が訪れた時はちょうど種付けをしているところで、小さなアーサ達が付き始めているところでした。

金城さんはアーサを養殖する上で、とても品質にこだわっています。この品質は、周辺の畑からの赤土流出や魚(ボラ)の食害



1,2m×18m の養殖用の網がずらり整列



アーサの種付け中。潮の満ち引きにより、網にアーサが付きま

などと戦いながら、いかに愛情と手間をかけるかで良し悪しが決まるそうです。今年採れたアーサの加工品を1つ頂き家で食べ、そのおいしさに感動したのですが、1度冷凍すると味はどうしても落ちてしまうようで、採れたてのアーサはこの何倍もおいしいといえます。

緑の絨毯が一面に広がる来年の2月から3月頃に、ワークショップで海の観察会の後、アーサの収穫・試食をできたらいい

ねとお話もできましたので、おいしいアーサを味わえる機会を作る予定です。ホームページやFacebookで案内しますので、チェックして下さいね。

(研究員 当山昌治)



頂いたアーサは「ゆしどろふ」と一緒にお汁で。ご馳走様でした。

## ピース&グリーンボート 2014

船で地球一周をする「ピースボート」をご存じの方は多いと思いますが、実は「ピース&グリーンボート」という船旅もあるのです。

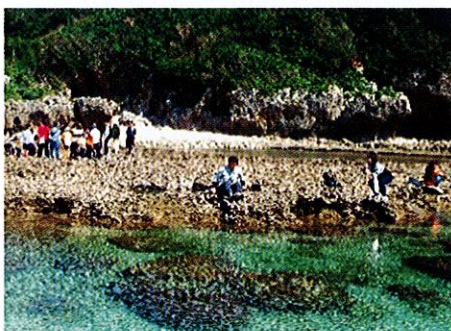
ピース&グリーンボートとは、韓国環境財団とピースボートを運営している(株)ジャングレイスが協力して実施している船旅の事です。おきなわ環境クラブは、その一部である沖縄の自然や環境をテーマにした環境学習を11月5日(水)に実施しました。

### ◆ 一日の内容 ◆

- ①糸満市大度海岸で専門ガイドによるサンゴ礁生物の観察と海洋環境問題の解説
  - ②琉球ガラス村で昼食、琉球ガラスの制作工程を見学
  - ③ラムサール条約登録湿地「漫湖」でマングローブの干潟生物観察
  - ④漂着ゴミの観察・解説
  - ⑤水辺植物の植樹
  - ⑥意見交換会(漫湖水鳥湿地センター)
- ※移動中のバスでは、沖縄の自然・歴史・文化についてガイドが解説しました。

参加者はスタッフを含めて韓国人31名、日本人9名で、亜熱帯地域のサンゴ礁海岸・マングローブを見て、とても感動していました。一方で、沖縄で起きている環境問題についても学び、この問題に対してどのように行動へ移すかをテーマにした意見交換会では、ツアー中感じた事を討論・発表しました。漂着ゴミや温暖化は地球規模の環境問題です。今回感じた事や学んだ事を活かし、個人や団体でできる事から行動に移してもらいたいと思っています。

(研究員 当山昌治)



糸満市大度海岸にて、専門ガイドと一緒にサンゴ礁の生き物を観察中



植樹後の記念撮影の様子



最後の意見交換会。学生を中心に活発な意見がでました

## JICA地域別研修「第3回島嶼国水産普及員養成」

この研修は、2014年9～10月の2ヶ月間、太平洋州4ヶ国、カリブ諸国5ヶ国、アフリカ地域1ヶ国の合計10名を対象に、沖縄とフィジー共和国で研修を実施しました。

今回、各国の水産普及員が「沿岸水産資源の共同管理」「水産業の多様化」「地域の生計向上」の方策について理解を深めるため、行政施策の講義や関連施設の見学だけでなく、たくさんの協力団体や地域のご協力で様々な実習をおこないました。

研修員から「研修を通して新たな漁業方法や食品加工手法を学んだ。多くの新しい学びがあり、コミュニティーの訓練に役



地元漁業者との操業・漁業実習  
(カンダブ島ロマティ村沖)  
漁獲後は船上で血抜き・保冷を実施



魚の捌き方の実習  
(沖縄県水産海洋技術センター)

立てることができる。」「自組織では漁獲物の取り扱いや水産加工に関して高度な研修は行われておらず弱い分野である。このような研修は非常に役に立つ。」などのコメントが寄せられ、充実した研修だったことがうかがえました。※研修の様子はFacebookでも見ることができますのでご覧ください。



中層兼表層パヤオの製作実習  
(フィジー水産局東部地区事務所)



パヤオを利用した漁業実習(宮古島沖)

一方、大洋州諸国とカリブ諸国では、歴史的な背景が異なることから地域組織の形成や意思決定のプロセスにも大きな違いがあり、共同管理・運営という点については異なるアプローチや研修方法も検討する必要があることも分かってきました。このことは水産分野に限らず、他分野でも共通した課題と思われる。

研修にご協力を頂いた沖縄県農林水産部、県内各漁業協同組合、フィジー水産局、カンダブ島の皆さま、本当にありがとうございました。引き続き、沖縄と大洋州諸国の懸け橋となるような機会を作っていきたいと考えています。

(副会長 吉田透)

## JICA地域別研修「第3回中南米地域 熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営」

2014年9月29日～11月28日の61日間、中南米の観光分野で働く行政職員10名を対象として、沖縄本島と本州(東京都・群馬県)で研修をしました。

中南米諸国では、大型リゾートホテル等の急速な開発による自然環境資源の劣化が問題視されています。

外貨獲得、雇用拡大などの面から、観光が重要産業であるとの認識の中、自然及び歴史・文化資源を持続的に活用し、地域経済の活性化を図るエコツーリズムの振興は中南米諸国でも重要な取り組みであると考えられています。

しかし中南米諸国では、豊富な自然を有するものの、エコツーリズムにおける効果



群馬県谷川岳エコツアー:山麓レッキングの様子



ファンリテーション講座:グループ別ワークショップの様子

的な取り組みがまだ十分には行われておらず、経験やノウハウの備蓄も不十分な状況にあります。このような状況を受け、2005～2009年に「全世界の国々」を対象としたエコツーリズムの経験・ノウハウの普及を目的とした研修を実施し、2010～2012年には対象地域を類似した自然環境、文化の地域ごとに絞り込み、「中南米地域」対象の「人材育成普及型」研修を実施しました。そして昨年2013年には「中南米地域」対象の「第1回:課題解決促進型」研修を実施し、引き続き今年は「第2回:課題解決促進型第2」の研修を行いました。

(研究員 矢野誠)

# 活動一覧

## 2014年7～12月 活動実績

### 【地域活動】

- ① 第32,33,34回国場川ワークショップ  
(2ヶ月に1回開催)
- ② 平成26年夏休み体験教室  
・科学で見よう! 漫湖の水調べ隊  
・水辺のエコマップを作ろう!
- ③ サガリバナ観賞会  
・首里崎山町(6/28、29) ・首里末吉町(7/5、6)
- ④ イベント出展:JICA 国際協力・交流フェスティバル
- ⑤ 河川整備基金助成事業:なはエコガイド養成講座(～12/25)、  
なはエコガイドハンドブックの出版
- ⑥ 環境教育ツアー・CSR活動受け入れ  
・株式会社エアートーヨー サマーキャンプ2014(7/29実施)  
・Peace & Green Boat 2014 (11/5 実施)  
・MS & ADインシュアランスグループCSR活動(12/6実施予定)



### 【国際協力】

- JICA沖縄国際センター 課題別研修業務
- ① 島嶼国水産普及員養成
  - ② エコツーリズム企画・運営(中南米地域)
  - ③ ミクロネシア 3 国水衛生管理

## 2015年1～6月 活動予定

### 【地域活動】

- ① 第35,36,37回国場川ワークショップ  
(2ヶ月に1回開催)
- ② OEC会員懇親会(2月 or 3月実施予定)
- ③ イベント出展:アジェンダ 21 県民環境フェア
- ④ 環境教育ツアー・CSR活動受け入れ(随時受け入れ)



### 【国際協力】 JICA沖縄国際センター 課題別研修業務

- ① 島嶼部を活用した持続可能な観光開発
- ② 島嶼水環境の保全と管理
- ③ ミクロネシア 3 国水衛生管理
- ④ エコツーリズム企画・運営(アジア・大洋州地域)

亜熱帯の自然を  
体験しにこない  
かニ?



## 会員・ボランティア募集

都市部に残された身近な「自然環境」について目を向け  
てもらふことを目的に、2ヶ月に1回、国場川河川敷において  
サガリバナ及び水辺植物の手入れや植栽活動・観察会など  
の楽しいイベントを行っています。初めて参加される方でも  
一緒に楽しく作業できますので、ぜひご参加下さい。お待ち  
しております。

また、サガリバナや水辺植物に興味のある方々を中心と  
して、「ボランティアグループ」を作る予定です。おきなわ環  
境クラブと協力して活動を行い、将来的にはボランティアグ  
ループが主体となり、活動していく事を目指していきます。興  
味のある方は、電話やメールでお問い合わせ下さい。

## 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

### 自然と環境の保全是足元から!

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保  
全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全  
の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人の  
NPO/NGO 団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場370-107

TEL 098-833-9493

FAX 098-833-9473

✉ kokuba@npo-oec.com

🌐 <http://www.npo-oec.com>

Facebookページできました。  
「おきなわ環境クラブ」で検索!

